会報

第110号

公益社団法人
日本海海難防止協会

目　　次

Ⅰ　事　業　報　告

Ⅰ－１　委員会等開催

１　青森港における大型客船入出港に係る航行安全調査

1－1　ビジュアル操船シミュレータ実験・・1

1－2　作業部会・・1

1－3　追加ビジュアル操船シミュレータ実験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

２　伏木富山港（伏木地区）大型客船入出港に係る操縦性能等確認調査

2－1　ビジュアル操船シミュレータ実験・・2

2－2　第２回検討会・・2

３　金沢港大型客船入出港に係る航行安全対策調査

3－1　第１回委員会・・3

3－2　ビジュアル操船シミュレータ実験・・3

４　北陸電力㈱富山新港火力発電所ＬＮＧ桟橋建設工事に係る航行安全調査

第１回委員会・・4

Ⅱ　会　務　報　告

Ⅱ－１　業 務 日 誌 抄・・5

Ⅱ－２　業　務　予　定・・・5

Ⅲ　寄　稿　欄

防災関係機関相互の情報共有の基盤を強化しました・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

伊勢皇大神宮参詣・・9

Ⅳ　連　絡　事　項

☆冬季海難防止のために…気象・海象の確認はしましたか？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

☆会員名簿の変更・・13

Ⅰ　事　業　報　告

Ⅰ－１　委員会等開催

１　青森港における大型客船入出港に係る航行安全調査

1－1　ビジュアル操船シミュレータ実験

(1) 開 催 日：平成 25 年９月 12 日(木)～13 日(金)

(2) 場　　所：東京都　株式会社エム・オー・エル・マリンコンサルティング

1－2　作業部会

(1) 開 催 日：平成 25 年 11 月 27 日(水)

(2) 場　　所：青森市　青森国際ホテル

(3) 出 席 者：別記のとおり

(4) 議　　題：

① 第１回委員会における質疑・対応について

② ビジュアルシミュレータ実験結果について

③ 係留の安全性について

④ 航行安全対策案について

別　記

出席者名簿

(順不同・敬称略)

委　員	大津　皓平	東京海洋大学　名誉教授
	田中　一臣	青森港水先人会　水先人
関係官公庁		
	長崎　孝俊	第二管区海上保安本部　交通部　安全課長
	中村　　学	〃　交通部　安全課　海務係長
	田中　良喜	青森海上保安部　交通課長
	加賀谷　舞	〃　交通課　安全係
	吉田　久隆	東北地方整備局　青森港湾事務所　工務課長
	片倉　信一	〃　〃　工務課第一工務係長
事務局	桑島　　廣	公益社団法人日本海海難防止協会　専務理事
	安藤　眞博	〃　事業部長
	檜ヶ谷正道	〃　主任研究員
	山田　福市	株式会社エム・オー・エル・マリンコンサルティング　代表取締役専務
	杉山　直樹	〃　海洋技術部　主任研究員
	岩永　恵子	〃　海洋技術部　研究員

1－3　追加ビジュアル操船シミュレータ実験

(1) 開 催 日：平成 25 年 12 月 10 日(火)

(2) 場　　所：東京都　株式会社エム・オー・エル・マリンコンサルティング

2 伏木富山港（伏木地区）大型客船入出港に係る操縦性能等確認調査

2－1　ビジュアル操船シミュレータ実験

(1) 開 催 日：平成 25 年 10 月 3 日(木)

(2) 場　　所：東京都　株式会社エム・オー・エル・マリンコンサルティング

2－2　第２回検討会

(1) 開 催 日：平成 25 年 11 月 6 日(水)

(2) 場　　所：富山市　富山県民会館

(3) 出 席 者：別記のとおり

(4) 議　　題：

① 第１回検討会質疑・対応について

② 操船の安全性(シミュレーション結果)について

③ 航行安全対策及び調査結果について

④ 報告書構成案について

別　記

出席者名簿

(順不同・敬称略)

委　員	山﨑　祐介	富山商船高等専門学校　名誉教授
	藤森　　剛	伏木水先区水先人会　会長
	神田　修二	伏木水先区水先人会　副会長
	針山　健二	伏木海陸運送株式会社　代表取締役社長
(委員随行)		
	吉田　秀樹	伏木海陸運送株式会社　船舶課　課長
関係官公庁		
	三ヶ田忠弘	第九管区海上保安本部　交通部　安全課長
	峯吉　栄治	伏木海上保安部　交通課長
	岸本　秀樹	伏木海上保安部　交通課　安全係長
事務局	桑島　　廣	公益社団法人日本海海難防止協会　専務理事
	安藤　眞博	〃　事業部長
	檜ヶ谷正道	〃　主任研究員
	花棚　景子	〃　調査員
	山田　福市	株式会社エム・オー・エル・マリンコンサルティング　代表取締役専務
	杉山　直樹	〃　海洋技術部　主任研究員
	岩永　恵子	〃　海洋技術部　研究員

3 金沢港大型客船入出港に係る航行安全対策調査

3－1 第１回委員会

(1) 開 催 日：平成 25 年 10 月 24 日(木)

(2) 場　　所：金沢市　石川県庁会議室

(3) 出 席 者：別記のとおり

(4) 議　　題：

① 大型クルーズ客船の入港計画等について

② 調査・検討の計画について

③ 金沢港の現状について

④ 航行環境(気象・海象、海域等)について

⑤ 操船に係る基礎的検討について

⑥ 操船シミュレーションによる検討方案について

別　記

出席者名簿

(順不同・敬称略)

委　員	山﨑　祐介	富山商船高等専門学校　名誉教授	
	久古　弘幸	一般社団法人日本船長協会　副会長	
	松田　信悟	七尾水先区水先人会　会長	
関係官公庁			
	三ヶ田忠弘	第九管区海上保安本部　交通部　安全課長	
	中山　　泰	金沢海上保安部長	
	橋野　好雄	金沢海上保安部　交通課長	
	中野谷　隆	〃　交通課　安全係長	
	近藤　真造	北陸地方整備局　金沢港湾・空港整備事務所　副所長	
	伊藤　英介	金沢地方気象台　防災業務課　防災管理官	
	川本　直樹	〃　防災業務課　防災業務係長	
事務局	桑島　　廣	公益社団法人日本海海難防止協会　専務理事	
	安藤　眞博	〃　事業部長	
	檜ヶ谷正道	〃　主任研究員	
	花棚　景子	〃　調査員	
	山田　福市	株式会社エム・オー・エル・マリンコンサルティング　代表取締役専務	
	杉山　直樹	〃　海洋技術部　主任研究員	
	岩永　恵子	〃　海洋技術部　研究員	

3－2 ビジュアル操船シミュレータ実験

(1) 開 催 日：平成 25 年 11 月 20 日(水)～21 日(木)

(2) 場　　所：東京都　株式会社エム・オー・エル・マリンコンサルティング

４ 北陸電力㈱富山新港火力発電所ＬＮＧ桟橋建設工事に係る航行安全調査

第１回委員会

(1) 開 催 日：平成 25 年 12 月 13 日(金)

(2) 場　　所：富山市　ＡＮＡクラウンプラザホテル富山

(3) 議　　題：

① ＬＮＧ桟橋建設工事計画について

② 調査・検討の計画について

③ 伏木富山港の現況について

④ 航行環境について

Ⅱ　会　務　報　告

Ⅱ-1　業 務 日 誌 抄

（平成 25 年９月～12 月まで）

月　　日	内　　容
９月 12 日(木) ～13 日(金)	青森港における大型客船入出港に係る航行安全調査 ビジュアル操船シミュレータ実験　（東京都）
９月 26 日(木) ～27 日(金)	全国海難防止団体等連絡調整会議作業部会 （東京都）
10 月　３日(木)	伏木富山港(伏木地区)大型客船入出港に係る操縦性能等確認調査 ビジュアル操船シミュレータ実験　（東京都）
10 月 24 日(木)	金沢港大型客船入出港に係る航行安全対策調査　第１回委員会　（金沢市）
11 月　６日(水)	伏木富山港(伏木地区)大型客船入出港に係る操縦性能等確認調査 第２回検討会　（富山市）
11 月 14 日(木) ～15 日(金)	全国海難防止団体等連絡調整会議 （東京都）
11 月 20 日(水) ～21 日(木)	金沢港大型客船入出港に係る航行安全対策調査 ビジュアル操船シミュレータ実験　（東京都）
11 月 27 日(水)	青森港における大型客船入出港に係る航行安全調査　作業部会　（青森市）
12 月 10 日(火)	青森港における大型客船入出港に係る航行安全調査 追加ビジュアル操船シミュレータ実験　（東京都）
12 月 13 日(金)	北陸電力㈱富山新港火力発電所ＬＮＧ桟橋建設工事に係る航行安全調査 第１回委員会　（富山市）

Ⅱ-2　業　務　予　定

(1) 金沢港大型客船入出港に係る航行安全対策調査　第2回委員会　１月中旬　金沢市
(2) 青森港における大型客船入出港に係る航行安全調査　第2回委員会　１月下旬　青森市
(3) 北陸電力㈱富山新港火力発電所ＬＮＧ桟橋建設工事に係る航行安全調査　第2回委員会　２月中旬　富山市
(4) 日本海中部海域における小型船舶の安全対策に関する調査研究（富山県・石川県地区）　第２回委員会　３月上旬　金沢市
(5) 平成25年度第３回理事会　３月中旬　新潟市
(6) 会報第111号発行　４月下旬

Ⅲ　寄　稿　欄

防災関係機関相互の情報共有の基盤を強化しました

第九管区海上保安本部　海洋情報部

監理課長　小坂　恵世

海上保安庁では、油流出事故が発生した際に的確な油防除活動が行えるよう、油汚染に対する海岸のぜい弱性情報等をインターネットにより「CeisNet（シーズネット）」※で提供しています。

これまで、油流出事故等において、発生場所や防除活動エリア等の位置を海上保安庁では経緯度で表し、地方公共団体や警察・消防等では住所で表すなど、両者の間で情報共有がスムーズに行われない場合がありました。

この度、「シーズネット」にUTMグリッド表示機能を追加し、９桁の文字列で場所を特定できるようにしました。これにより関係機関間での情報の共有が容易になり、油防除活動等への対応がより迅速になることが期待されます（別紙参照）。

なお、国際的にも一般的に用いられている表示手法であるUTMグリッドは、我が国でも、中部地方で先駆的に警察・海上保安庁・陸上自衛隊の三機関共通グリッド防災情報図として使用する等利用が広がりつつありますが、今回、「シーズネット」にUTMグリッド表示機能を追加したことで、我が国の海域（陸部を含む）のどこでもUTMグリッドを表示することができるようになります。

※「Ceis」はCoastal Environmental Information Service（沿岸域環境保全情報サービス）の頭文字です。

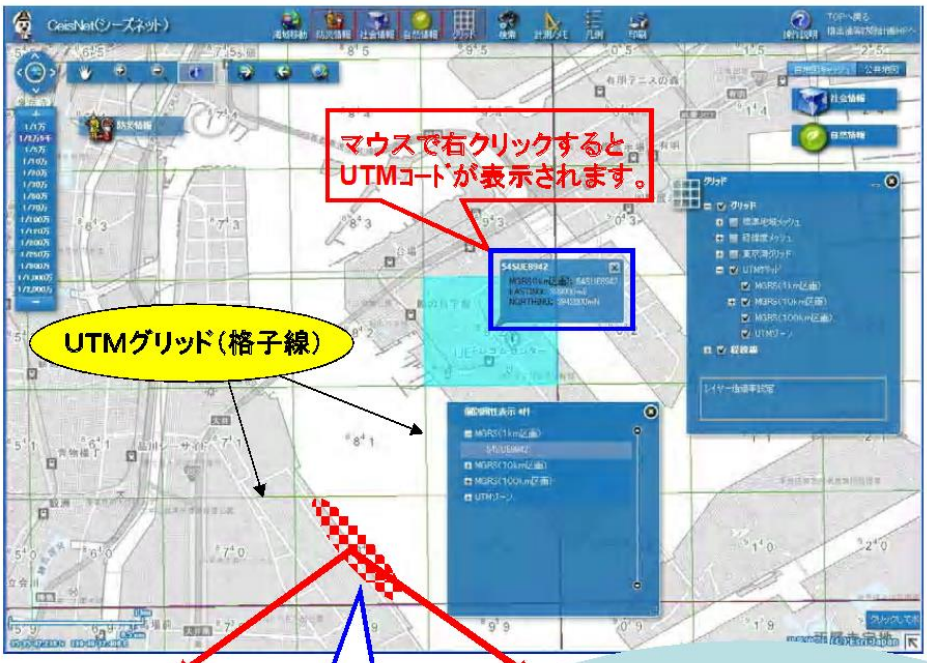
CeisNet URL: http://www4.kaiho.mlit.go.jp/CeisNetWebGIS/

【別紙】

UTMグリッドについて

UTMグリッドは、UTM（Universal Transverse Mercator：ユニバーサル横メルカトル）座標に基づいて、地上の任意の場所を特定する手法の一つです。

今回「CeisNet」に追加したUTMグリッド表示機能では、地図上に直交するグリッド（格子線）を引き、それぞれのグリッドを、国際的にも一般的に用いられている MGRS※ のルールに沿ったコード（英数文字列）によって、1km単位のグリッドまで表示されます。



陸上の公的機関においては、位置を特定するのに住所を使用しています。

海上保安庁をはじめ海事関係者においては、位置を特定するのに緯度経度を使用しています。

UTMグリッドで「54SUE8840」です。

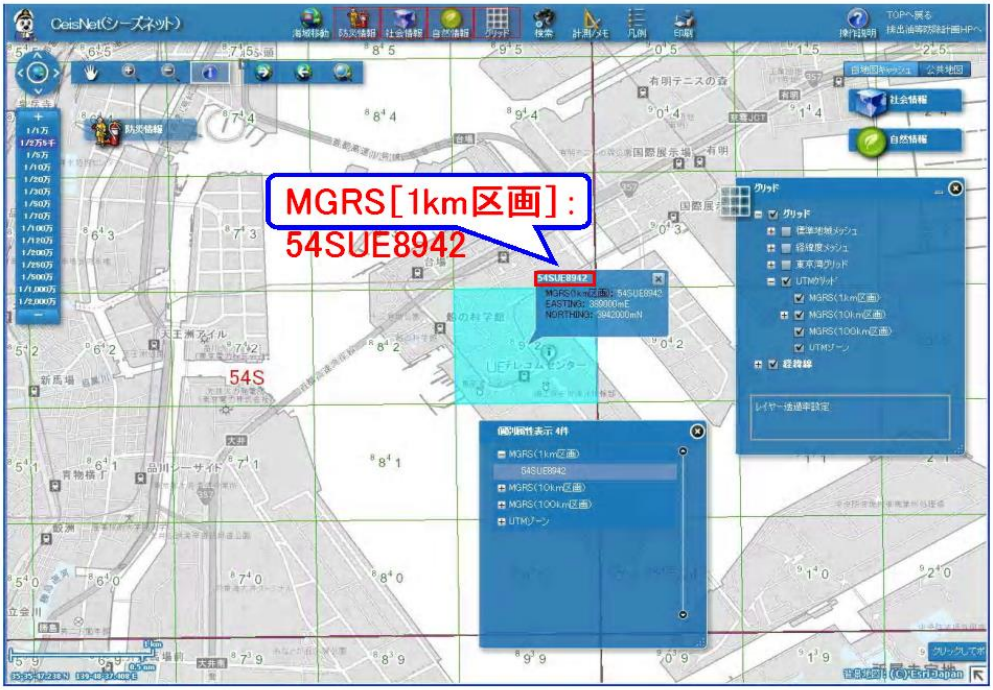
今までは、緯度経度及び住所をそれぞれ使用し、位置情報の共有がスムーズに行われない場合がありました。

今後、UTMの9桁の文字列で場所を特定することで、関係機関の位置情報の共有が容易になります。

※ MGRS（Military Grid Reference System）は米軍のグリッドシステムであり、北緯84度から南緯80度まではUTM座標系、極付近ではUPS（Universal Polar Stereographic：ユニバーサル極平射）座標系をベースに定められ、各格子線で区切られた区画（ゾーン）は、英数字の文字列で表示されます。

【参考】

UTMグリッド番号について



○ UTMグリッド番号 （54SUE8942）

各グリッド番号はMGRSに準拠した以下のルールで付与されます。

54 : UTMゾーン（西経180° から東回りに経度6° 毎に1～60で表す。）

例えば、東経132-138° は「53」、138-144° は「54」となる。

S : UTMゾーン識別ID（南緯80° から北へ緯度8° 毎にC～Xの１文字で表す。ただし、「I」と「O」は「1」と「0」と紛らわしいので用いない。）

例えば、北緯24-32° は「R」、32-40° は「S」、40-48° は「T」となる。

UE : 100km区画ID（経度6° ×緯度8° の各グリッド内を、更に100km四方の区画に分割し、各々の区画を MGRS に準拠したルールに沿って、ｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄ2文字で表す。

8942 : 東方向座標・北方向座標（100km区画内を、更に1km四方の区画（1万個）に分割し、各区画を（100km区画の左下角を起点に）0000～9999で表す。

伊勢皇大神宮参詣

元舞鶴事務所長　山本勝眞

今年の短い秋の終わり（立冬を過ぎていますのですでに冬ですか・・・？）の 11 月 13 日、晴れ間をぬって、伊勢の皇大神宮に参詣してきましたので、今回は、「舞鶴の神様たち」を一回お休みにさせていただいて、伊勢の神様についてお話させていただきます。

今回の伊勢参りは、私の現役時代（海保）の OB 会「八管かいほクラブ」主催のバスレクに参加しての参詣です。午前 7 時 45 分に舞鶴を出発、舞鶴若狭自動車道～京都縦貫自動車道～京滋バイパス～新名神高速～伊勢自動車道と自動車専用道路を乗り継いでの正味約 4 時間（途中関で昼食）でした。舞鶴では冷たい雨の降る天候でしたが、南の方に行くに従い、日が射してきてまずまずのお出かけ日和になってきまして、伊勢では、本当によい天気にまぐまれました。

ご承知のとおり、伊勢皇大神宮は、今年 20 年に１度の式年遷宮の年にあたり、つい１か月前（10 月 2 日）に遷御（御神体を新宮に遷し奉る）されました。外宮の外、内宮 14 の別宮などすべてが新しく建て替わり、その費用は５００億円を超えるともいわれ、伊勢神宮の一大行事であります。

今回の参詣は、その遷御から１月ほどですから、正殿は、真新しい檜の白木でそれこそ節一つも見当たらず、装飾と言えば千木の先端部や破風、勝男木の先端部に金色の装飾が施されているだけで、それ以外は大変質素（に見えるだけで造作は大変手が込んでいますが・・・）な造りになっています。

もちろん伊勢神宮は、神明式の建造物で、鳥居の笠木（一番上部の横に渡してある部材）は真っ直ぐ、御本殿は本入り（屋根の傾斜の側が正面）です。

宇治橋の第一鳥居

礎石などはなく、柱は土中に埋め込んだ形。

千木は内削ぎ、勝男木 10 本で偶数とまさに女性の神様の神社である形式をとっています。

私は、過去に３～４回訪れた事はあるのですが、年のせいか、はたまた以前には、ここまで日本の神々に関心が深くなかったせいか、今回ほどは感激がなかった様な気がします。

ここですこし、私たちの住む丹後地方と伊勢神宮のかかわりについて触れさせていただきますと、

舞鶴の隣町福知山市の大江地区（旧加佐郡大江町）と宮津市の傘松地区（宮津市大垣）に、それぞれ「元伊勢」と呼ばれている神社があります。

「そもそも元伊勢神宮とはどういう神社なのか」ということをすこしお話ししなければなりません。

伊勢神宮に祀られておられる神様は、ご存じのとおり「天照皇大神（ｱﾏﾃﾗｽｵｵﾐｶﾐ）」様ですね。

初代神武天皇御即位以来、この天照皇大神様をはじめ、倭の偉い神様たちは、皇居内に祀られておられました。十代崇神天皇の御代、冷害による飢饉と病気の流行で、都をはじめ日本中（？）が滅亡の危機にさらされた時代がありまして、これは神々の怒りによるものとお考えになった天皇は、皇居内からこれらの神々を遷宮し、ちゃんとした神域を定めてお祀りすることをお決めになりました。（崇神天皇は、その名の通り、もっとも神々を崇め、最も多くの神社を創建された天皇であったとされています。）

内宮本殿

神々の遷宮の地は、現在の天理市や桜井市あたりに、次々とその鎮座の場所が決まっていったのですが、天照皇大神様だけが、なかなかうまくいかず、お鎮まりの場所探しは大変難航したようです。

一説によると、初め「倭の笠縫邑（現在の奈良桜井市三輪山の近く）」から、安住の地を求めてご出御され、「丹波」、（大江町、宮津とも今は丹後地方ですが、分国される以前は「丹波国」だったようです。）「滋賀県の甲賀・近江」、「三重県の上野・松坂」等々、何ケ所もの土地々々を、二十年以上（あるいは六十年とも？）にも及ぶ放浪（失礼な言い方で申し訳ありませんが・・・）の旅の末、やっと現在の「三重県伊勢市」に落ち着くことが出来たとあり、その放浪の旅の途中のひとつに、「丹波の吉佐宮に四年間」というのがあるのです。

この「丹波の吉佐宮に四年間」のご行在所が、冒頭の大江町の「吉佐の宮」か？笠松の「籠神社」か？というのです。（ただし籠神社のほうでは、「与佐の宮に四年」と表記しております。）

天照皇大神様が、ほんとうはいずれの神社に仮宮を営まれたかは別の考証に譲るとして、このように丹後地方と伊勢神宮は深いかかわりがあるわけです。

もし、昔丹後地方の人々が、天照皇大神様を崇拝し、ご鎮座に協力したなら

ば、現在の伊勢のにぎわいは、ここ丹後地方であったかもしれませんね。

ところで、私は、以前この稿で触れたと思うのですが、伊勢の天照皇大神様
諡号を「撞賢木厳御魂天疎向津毘売尊（ﾂｷｻｶｷｲﾂﾉﾐﾀﾏｱﾏｻｶﾙﾑｶﾂﾋﾒﾉﾐｺﾄ）」と申し上げるということに触れたと思いますが、実はこの神様には「天照」という称号は諡号のなかにありません。

（諡号は「おくりな」のことで、仏教の場合の戒名に相当するものです。）
ちなみに諡号に「天照」の称号が含まれるのは、「天照国照彦天火明奇甕玉饒速日尊（ｱﾏﾃﾗｽｸﾆﾃﾗｽﾋｺｱﾒﾉﾎｱｶﾘｸｼﾐｶﾀﾏﾆｷﾞﾊﾔﾋﾉﾐｺﾄ）」でこの神様は、奈良の大神神社をはじめ各地に祀られておられますが、この神様は、初代天皇の神武天皇以前の方のようです。

神武天皇が日向（現在の九州宮崎）系の方であるのに対して、饒速日尊は出雲系の方である（私はこの説を支持しています）といわれています。

五十鈴川

日本の古代史は、諸説ありますが、古代史の中心は、ご存じのとおり、古事記や日本書紀（記紀といいます）にその主たる根拠を求めています。7 世紀の終わりころに編纂された記紀では、神武天皇をはじめ八代までの信ぴょう性が定かでないのです。

とくに神話の部分に至っては、どう考えても現実の話ではありませんからね。

もちろん「言ったもん勝ち」というわけにはいきませんが、何かしら根拠があれば、まだまだ有力説として切り込む余地は充分にあると思うのです。

遺跡の発掘による出土品は、古代を物語る有力な証拠品ではありますが、多くの場合文献を伴わないもので、決定的に古代史実と結びつくものはすくないのではないでしょうか。

古代の歴史をひも解くには、神社（特に記紀以前の古社）訪ねることも大変意義あることだと思います。

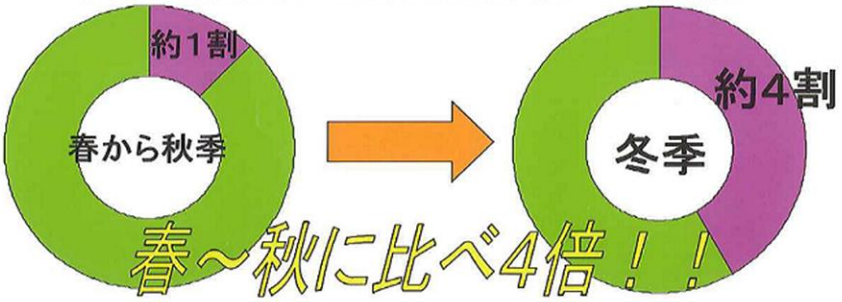
今回の伊勢皇大神宮参詣をして、さらにもっともっと神社を訪ね歩き、古代のロマンを覗いてみたいと思った次第です。

Ⅳ　連　絡　事　項

冬季海難防止のために・・・

気象・海象の確認はしましたか？

気象・海象不注意、異常気象による海難



第九管区海上保安本部管内での過去5年間の海難のうち、気象・海象不注意、異常気象によるものが占める割合は春から秋季に比べ冬季は4倍となっています！！

悪天候が予想されるときは、

- 出港、出漁はやめましょう！
- 早めに帰港しましょう！
- 早めに安全な海域へ避航しましょう！

また、海上保安庁では、海の安全に関する情報をホームページやメール配信(港における避難勧告や気象警報等の緊急情報)により提供しています。

携帯電話用ホームページのQRコード

メール配信の登録用QRコード

海の安全に関する情報は

沿岸域情報提供システム
MICS 海上保安庁

パソコン用ホームページ
http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/mics/

海の「もしも」は
１１８番

JCG 新潟海上保安部　佐渡海上保安署　上越海上保安署

☆会員名簿の変更

現在発行している会員名簿の変更です。

○　指定代表者等の変更

頁	会　社・団　体　名	指定代表者職氏名	担 当 者 職 氏 名
22	海洋運輸㈱	代表取締役社長 安　藤　智　文	管理部長 林　　敏　博
〃	東亜建設工業㈱	北陸支店支店長 天　宅　　健	安全環境室長 棚　橋　賢一郎

頁	会　社・団　体　名	代 表 者 職 氏 名	担 当 者 職 氏 名
41	北陸電力㈱福井火力発電所	所　長 大　蔵　治　一	業務課長 上　塚　貢　明

○　住所等の変更

頁	会　社・団　体　名	住　　所	電　　話
33	舞鶴水先区水先人会	〒624-0945 京都府舞鶴市字喜多 1105 番 1 舞鶴 21 ビル 605 号	0773-77-5587